

No.2002	
3月13日例会	プログラム 「児島湾干拓のお話」 榎田 正則君
3月27日例会	プログラム 「識字率向上月間に困んで」 谷口 康則社会奉仕委員長
3月13日のメニュー ・帆立貝柱と海老の木の芽味噌焼き ・鯉のたたき ・大根生酢 ・ヒレカツ丼 ・お味噌汁 ・コーヒー	

### 前回（3月6日）例会記録

出席報告	会員総数	32名	出席者数	24名	欠席者数	8名	出席率	75.00%	前回補正率	90.63%
	前回補正者	仲田君								
	欠席者	林君 石川君 井上君 三宅(照)君 仲田君 島田君 安江君 山田(次)君								

来 訪 者 森 学様（元岡山県 PTA 連合会会長）

#### 会長挨拶

会員の皆様、こんにちは。例会出席ありがとうございます。本日のゲストをご紹介します。元岡山県 PTA 連合会会長の森学様です。ようこそいらっしゃいました。後ほど卓話をいただきます。本日の挨拶は、やはり 100 年に一度と云われる経済危機のお話をいたします。現在、米国では大手金融機関の資産の査定に入っています。サブプライムローンに端を発した現状に照らし厳しく査定しているようです。この査定により底値あるいはこの経済危機の深さが分かるのではないかと考えています。昨年4月か6月頃、元日銀副総裁の武藤氏は時価が40%下落すると景気は底を打つと言っていました。現在28から30%ですのあと10%下落で底を打つと思います。製造業においての底打ちは4月から6月頃、その後は徐々に上向いてくるのでは・・・と考えております。希望的観測を交えながらのお話です。

#### 会長報告

- ・ 本日は3月の第1例会日です。例会後、理事役員会を行いますので、理事役員の方はお残りください。

#### 幹事報告

- ・ 鳥居ガバナー事務所より2008-2009年度RI会長賞申込書が届いております。
- ・ 大阪リバーサイドロータリークラブより40周年記念誌並びにDVD拝受のお礼状が届いております。
- ・ 本日、「抜萃のつづり その68」を配布させていただきました。
- ・ 3月3日(火) 岡山ロータリークラブの創立75周年記念例会・祝宴に会長と幹事が出席して参りました。
- ・ 他クラブの週報・例会変更通知は回覧させていただきます。

#### 第8回定例理事役員会議事録3月6日

- ・ 花見例会について（親睦・家族委員会より） 4月10日(金)例会場にて花見例会を開催。
- ・ ロータリー財団年次寄付140ドル/人・32人分を2月に特別会費と国際奉仕費より支払済み 承認。
- ・ 大阪リバーサイドRCへの2月26日訪問費用は40周年積み立て基金より抛出 承認。
- ・ 大阪リバーサイドRCからのWCS活動のお誘いについて WCS活動を共同することで承認。
- ・ 次年度RIテーマ看板の製作について 当クラブが順番では担当であるが、前回と同様に岡山県南18RCの他クラブに担当していただく。
- ・ 少年野球への支援について 倉敷・玉野の中学3年生の軟式野球大会が済んでから硬式野球に慣れる高校入学までの期間において少年野球に対して当クラブとして支援を行う。

#### 委員会報告

- ・ 親睦・家族委員会（岡委員長）：《誕生日祝》小野君10日、谷口君13日 《結婚記念日祝》安江君8日、高橋(秀)君13日、岸本君24日、谷口君24日、小野田君29日、仲田君30日
- ・ ハイロー会（谷口幹事）：第167回ハイロー会（3月29日）の案内をボックスに入れております。まだ余裕がありますので参加希望の方はご連絡願います。

- ・ 米山記念奨学会（小野委員長）：白石会員が米山功労者3回目の寄付をされました。
- ・ ロータリー情報委員会（松尾委員長）：ロータリーインターネット速報（2月24日）によりますとロータリー会員宛に新種の詐欺メールが出ているようです。うまい話には気をつけてください。

## スマイル・ボックス

- ・ 東川君、三宅(保)君 - 森様ようこそいらっしやいました。歓迎いたします。
- ・ 山田(孝)君 - 3月1日玉野月例杯優勝しました。
- ・ 富永君 - 森様、ようこそ。 久々に79で廻れました。藤田さんのお蔭です。イーグルも出ました。
- ・ 藤田君 - 山田先生、月例優勝おめでとうございます。 富永さん、イーグルおめでとう。
- ・ 岸本君 - 結婚記念日祝。 ・ 高橋(秀)君 - 結婚記念日祝。 ・ 小野君 - 誕生日祝。
- ・ 谷口君 - 結婚記念日祝。 誕生日祝。 ・ 三宅(孝)君 - 入会月。

## プログラム 「日本人の知性と感性」 元岡山県PTA 連合会会長 森 学様



本日はお招きをいただきありがとうございました。

先ほど会長から、元岡山県PTA連合会会長というご紹介をいただきましたが、皆さん方に子育ての話をしてもう興味がないと思いますし、また、立石さんからは、「玉野市協働のまちづくり指針策定委員」というご紹介をいただきましたが、「協働のまちづくり」の話をして面白くありません。ただ、「協働のまちづくり」というのは、これは私に言わせると、「もう役所にはお金がありません。したがって、まちづくりは市民の皆さんと一緒にしましょう」ということなのです。つまり、むかしの「勤労奉仕の時代に戻しましょう」ということです。私は、これはある程度仕方がないことだと思います。今まで日本人は、何でも行政にすがる一億総おねだり国民でしたから。

最近、やっと自己責任ということが言われだしましたが、日本は大体過剰親切、過剰サービスの国です。過剰親切は行政だけに限りません。例えば、駅のプラットホームへ行くと、「列車が入ります。黄色い線の後ろにお下がりください」というアナウンスがあります。こんなアナウンスは日本だけだそうです。乗り物に乗れば「お忘れ物ないように」、野球場へ行けば「ファールボールにご注意ください」、エスカレーターに乗れば「危険ですから手すりにおつかまりください」などなど、「人をバカだと思っているのか」と言いたくなるくらいです。このような、過剰親切は人間の注意力、ひいては感覚（五感）を欠如させるという心配があります。外国人は、日本人観光客のことを、「お金をたくさん持って、ぼうっとした、気のいい人」と言われるくらいです。ジャングルのようなところで生活している人は、五感を総動員して、獲物をとったり、あるいは危険を察知しなければいけません。しかし、文明国家では、食べ物はスーパーマーケットへ行けばなんでも手に入りますし、賞味期限まで書いてくれています。また、町へ出れば、信号その他「これでもか」というくらい過剰親切で身を守ってくれます。

私はPTA時代に「知育偏重教育の是正」ということを主張してきました。人間は、知性と感性が車の両輪のようにバランスよく備わっていないといけません。感性の元をなすのは五感です。五感というのは、ご存知のとおり、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚ですよね。この五感の重要性は、古今東西を問わず言われていることでして、古くは徒然草の中に出てきます。ただ、吉田兼好は五感ではなく六根と表現しています。つまり、眼（げん）耳（に）鼻（び）舌（ぜつ）身（しん）意（い）とっております。最後の「意」は心のことです。大事なものですから、根っこと言っております。人間はこの六根を常に清く保つことが大事である、ということで富士山を上るときなどに「六根清浄ろっしんじょうじょう、六根清浄！」と唱える人がいるでしょう。

感性は仕事へも影響します。よく「発想の転換」とか「創意工夫」などということが言われますが、これは感性がないとダメです。創造力とかひらめきというのは、知性によって培われたものが、感性によって花開くのだらうと思います。それでも、ここ数年来、感性の重要性つまり右脳が大切だということが言われだしました。

ではその感性つまり五感をどうやって磨けばいいかという問題があります。これは、本当は幼児のときから身に着けさせる必要があります。例えば、絵本の読み聞かせをするとか、道を歩いていて、草花を見つけたら、「ほら、見て美しい花でしょう」、あるいは夕焼けを見て「綺麗ねえ」とか。では大人になったらもうだめか、ということになるわけですがそうでもありません。それは、手紙を書くことがいいです。特にラブレターがよろしい。ラブレターだと、書き出しが、「仲秋の候」では硬いので、例えば、「集く虫の音に秋の気配を感じる頃となりました」となりますよね。こういう表現は、目を凝らし、耳を澄ましていないと出てきません。ラブレターを出す相手のいない人は、奥様に出してください。奥様はびっくり仰天して新しい恋愛感情が生まれるかも分かりません。

先ほど「知性と感性が車の両輪のようにバランスよく備わっていないといけません」と申し上げましたが、氷が解けるとどうなるか？という質問があります。「水になる」というのは知性です。「春になる」というのは感性です。両方の答えを持ってはいけません。私はもう一つ答えを持っております。「氷が解けると水割りが薄くなる」。

ご静聴ありがとうございました。